

令和 2 年度

# 森林教育活動事例集

三重県 



## はじめに

---

三重県では、平成 26 年 4 月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めており、その取組の一つとして、森林環境教育・木育の推進に取り組んできました。

この税を活用して、平成 28 年 4 月からは、森林環境教育・木育活動や森づくり活動の総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営し、森林環境教育・木育活動のコーディネート、指導者の育成や紹介、出前授業や活動事例集の発行などを行ってきたところです。

こうした中、令和 2 年 10 月には、森林や社会を巡る情勢の変化に対応するため、県がこれまで推進してきた森林環境教育・木育を、明確な目的意識の下、より効果的に実施していけるよう、取組の方向性を改めて整理した「みえ森林教育ビジョン」を策定し、基本的考え方や目標とする社会、人物像及び進め方を発展的に整理したうえで、森林教育指導者、森林・林業・木材産業関係者、保育関係者、教育関係者等と共有しながら、これらの取組を森林教育として一体的に進めていくこととしたところです。

この「森林教育活動事例集」は県内の学校等で実施された森林教育の活動事例を、ご提供いただいた情報をもとにまとめ、編集したものです。

実施された活動内容のほか、活動のねらいや時間割等についても掲載していますので、今後森林教育活動を計画、実施する際の取組の参考としてご活用いただければ幸いです。

この事例集に関するお問い合わせや、森林教育活動のご相談は、「みえ森づくりサポートセンター」へご連絡ください。

結びに、本事例集の発行にあたり、活動事例をご提供くださいました皆様方に厚く御礼申し上げます。

令和 3 年 3 月 三重県 農林水産部 森林・林業経営課

## みえ森林教育とは

---

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会を作っていくために、子どもから大人まで、三重県で暮らす誰もが、森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人（みえの森びと）に育つことを促す教育活動をいいます。

## みえ森林教育の基本的考え方

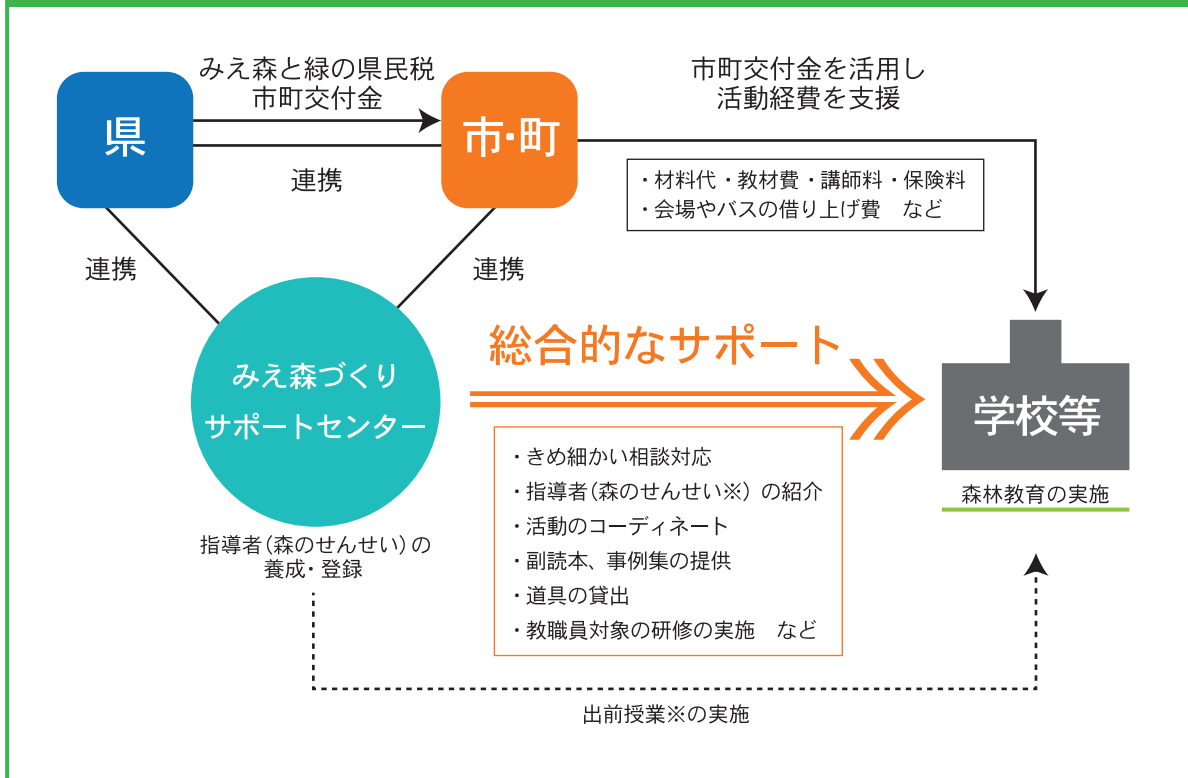
---

- ①森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育
- ②森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育
- ③自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

## 「みえ森と緑の県民税」を活用した森林教育について

「みえ森と緑の県民税」では、市町が地域の实情に応じて創意工夫して税の導入目的に沿った施策を展開できるよう、一定の財源を市町に交付する市町交付金制度を設けており、市町が小中学校などでの森林教育に活用することができます。

### 市町交付金を活用した森林教育実施の流れ



### 取組事例

#### ①学校で実施できる事例

- ・森のはたらきなどについての座学
- ・クラフト体験や木工工作
- ・校庭の樹木の名札付けや自然観察
- ・学校林での林業作業体験 など

#### ②校外で実施できる事例

- ・県民の森や森林公園での森林体験
- ・宿泊を伴う体験活動での森林学習
- ・遠足での森林体験
- ・製材所等への社会見学 など

#### ※森のせんせい

三重県では、学校や地域で森林教育を行える方を「森のせんせい」として登録し、学校などに情報提供しています。情報の一部はみえ森づくりサポートセンターのホームページで公開しています。

#### ※出前授業

市町交付金事業の対象とならない学校については、みえ森づくりサポートセンターが森林教育の出前授業に伺います。詳しくはお問合わせください。  
※年間10校程度を予定

# 目 次

1	森の話とペーパースタンド作り 桑名市立修徳小学校	5
2	ふるさとの里山で自然と人の暮らしを学ぶ いなべ市立阿下喜 <small>あげき</small> 小学校	6
3	学習の森再生プロジェクト 四日市市立内部東 <small>うつべひがし</small> 小学校	7
4	校庭の樹木観察 ～木に親しもう～ 四日市市立中央小学校	8
5	森の話とマイ箸作り 鈴鹿市立庄内小学校	9
6	森林の話と箸作り 津市立大里小学校	10
7	森のはたらき 木のはたらき 津市立村主 <small>すぐり</small> 小学校	11
8	自然体験学習 ～森の話と箸作り～ 多気町立佐奈小学校	12
9	森林のはたらきを学ぼう ～木を身近に感じることを通して～ 多気町立外城田 <small>ときだ</small> 小学校	13
10	森のせんせいといっしょに木となかよしになろう 伊勢市立佐八 <small>そうち</small> 小学校	14
11	森のおくりもので作品をつくろう 伊勢市立上野小学校	15
12	森や木について知ろう ～三重県産の木を使って椅子を作ろう～（上野小学校） ～三重県産の木を使って小箱を作ろう～（宮山小学校） 伊勢市立上野小学校・宮山小学校	16

13	木にさわってゲームを楽しもう！	
	玉城町立外城田 <sup>ときだ</sup> 小学校……………	17
14	森林のはたらきを知ろう ～マイ箸を作ろう～	
	玉城町立下外城田 <sup>しもときだ</sup> 小学校……………	18
15	森のはたらきを知り、木で作ってみよう！	
	南伊勢町立南勢小学校……………	19
16	暮らしの中に森林を感じよう	
	伊賀市立西柘植 <sup>にしつげ</sup> 小学校……………	20
17	校庭の樹木を調べ、身近な樹木と親しくなろう ～樹木名板作り～	
	四日市市立橋北中学校……………	21
18	美杉産の杉の間伐材を使った木工品作り	
	津市立橋北中学校……………	22
19	森の話とマイ箸作り	
	津市立西郊中学校……………	23
20	生徒による竹林整備の取組 ～放置竹林の整備で地域貢献～	
	三重県立桑名工業高等学校……………	24
21	間伐材を使ったすのこ作り体験 ～わくわく農林塾での森林環境教育～	
	三重県立久居農林高等学校……………	25
22	いがの木を使ったパンフレット棚製作 ～「みえ森と緑の県民税」を活用した取組～	
	三重県立伊賀白鳳高等学校……………	26
23	森林とわたしたちの暮らし	
	三重大学教育学部附属小学校……………	27
24	木育体験教室	
	鳥羽市立かもめ幼稚園……………	28

# 01

## 森の話とペーパースタンド作り

桑名市立修徳小学校



森の写真を見せてもらっています



卵型の木材に底面を作ります



木になりきって、手入れの大切さについて考えます



森のせんせいにコツを教してもらってサンドペーパーを使います

### ねらい

- ・ 森林のはたらきを学び、木の良さを体験する
- ・ 林業に携わる人から、地域の森林や林業の話聞き、森林や林業への理解を深める

### 取組内容

森の話では、森林による二酸化炭素の吸収や森のせんせいがどのように森の中で働いているのか、動画などで説明がありました。針葉樹、広葉樹などいろいろな木があることや枝打ちや間伐がなぜ必要なのかという話を聞きました。子どもたちは、初めて知る林業という産業に興味をもち、その大切さを感じることができました。

ペーパースタンド作りでは、卵型の木材にサンドペーパーで底面を作りました。卵型の木をさわっていることが心地よさそうで、「けずりたくない」という子もいましたが、「地震があっても転がらないくらいにしよう」と、一生懸命磨いていました。この活動により、木材の素材としての良さと、環境保全の大切さを学んでいくきっかけとなりました。

内容	・ 森林・林業の講話 ・ 木工クラフト
時間	1 時間 30 分（社会科）
場所	多目的室
対象	5 年生 50 人
講師	森のせんせい：谷上浩一氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 いろいろな種類の木を、いろいろな形でさわることができ、木の香りや肌ざわりを楽しんでいました。特に、自分でサンドペーパーをかけた卵型の木を、ずっとさわって楽しんでいました。

# 02

## ふるさとの里山で自然と人の暮らしを学ぶ

いなべ市立<sup>あげき</sup>阿下喜小学校



森の学習



森の健康診断



間伐体験



テーマ別座学



里山学習



組子細工体験

### ねらい

- ・阿下喜の森（人工林）の健康診断を通して、地域の森の現状を知るとともに関心を持ち森についての探究活動を行う
- ・里山学習を通して先人たちの暮らしを知り、人々の暮らしの変化による自然環境への影響を考える
- ・建具職人から伝統工芸の組子を学び人々と木の関係を学ぶ

### 取組内容

5年生は、日本の森についての学習と神社林の見学、森の健康診断の実習をしました。森の健康診断の結果を受けて間伐が必要な森と判定されたので、ヒノキの間伐と丸太切りの体験を実施しました。

6年生は、「いなべ市の里山」をテーマに獣害、土石流災害、絶滅危惧種の動植物等の学習、その中からテーマを選定し新聞づくりに取り組みました。

また、5・6年生の共通の取組として、地元の建具職人からスギの木を使った組子細工を学び、匠の技にふれました。

森林、林業、木材全般を学ぶことにより、里山や健康な森を守っていくことの難しさを知り、将来「ふるさとの里山」を守るために何が必要かを探求することができました。

内容	・神社林見学 ・森の健康診断 ・里山の学習 ・木工の学習
時間	5年生 13時間 6年生 20時間
場所	教室、体育館、学校林及び私有林、神社林
対象	5年生 28人 6年生 30人
講師	山造り研究所：鬼頭志朗氏 いなべ自然楽校：出口省吾氏 いなべ市まちかど博物館：木村修氏
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「森林環境教育支援事業」

【先生のコメント】 間伐の大切さを学ぶとともに、自然の中での体験活動で癒しの時間を過ごせたと思います。また、里山での野外活動を通じて里山問題から人と森のかかわりの深さが実感されたと思います。さらに、地元の名工からは木の文化の美しさを実感できたと思いました。

# 03

## 学習の森再生プロジェクト

うつべひがし  
四日市市立内部東小学校



森のせんせいによる危険動植物の説明



学習の森へ移動



学習の森で自由観察



森のせんせいによる指導



丸太切体験



丸太切体験

### ねらい

- ・学校林の「学習の森」をもう一度自分たちが遊んで学習できる森に再生するためにできる事は何かを考え、行動することができるようにする

### 取組内容

「学習の森」の再生に取り組む前に、まず、子どもたちが現況を知るため、森のせんせいが事前に調査して分かったことを概況として話をしました。内容は、ヤマウルシなどのかぶれる木やスズメバチなどの危険な動物の話や、森に入るための注意喚起を行いました。次に、「学習の森」の成り立ちの解説をするとともに、樹木の名前の由来や特徴など森や樹木に関心を抱かせる内容の話をしました。

続いて、「学習の森」での観察は、3クラスが時限を分け1限ずつ行いました。行動は、5人から6人の班に分かれてタブレットを持っての動植物観察、ノコギリで丸太を切る体験など子どもたちがそれぞれ興味のある活動に分れて実施しました。子どもたちは、それぞれ興味の違いがでる特徴がみられました。

この活動は、「学習の森」の再生の第一歩となりました。

内容	森・樹木の話、学習の森の散策体験
時間	1時間30分(総合的な学習の時間)
場所	体育館、学習の森
対象	6年生3クラス91人
講師	森のせんせい：出口省吾氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 学校の敷地内にあるにもかかわらず、危険であるという理由から入れなかった学習の森に入った子どもたちは、「自分たちの近くにこんなにも素敵な森があるということを知らなかった。」「もっといろんな人にこの森のことを知ってもらいたい。」という思いをもつことができました。また、学習の森に生育している植物についても教えてもらうことができ、子どもたちにとって貴重な体験の場となりました。



# 04

## 校庭の樹木観察 ～木に親しもう～

四日市市立中央小学校



森のせんせいからの解説



教わったことをさわって確かめる



教わったこと・調べたことのまとめ



墨と筆で名札づくり



名札の取り付け



写真を撮ってクイズづくり

### ねらい

・校庭の木の観察を通して、木や森について興味・関心を高める

### 取組内容

四日市市の中心部に位置する本校の子どもたちの多くは、商店街や住宅街の中で道端の雑草すらほとんどない道を登校しています。このため、校庭の樹木は、子どもたちにとって、自然への興味関心を高めるための身近で貴重な教材であると言えます。今回の出前授業では、森のせんせいから観察を通して木や森林について教わりました。

子どもたちは、一生懸命にメモを取りながら森のせんせいの話を聞き、次々と紹介されるそれぞれの木の特徴に新鮮なおどろきを見せていました。木にはそれぞれ名前があり、名前の由来があること。針葉樹と広葉樹、常緑樹と落葉樹、在来種と外来種があること。その木の実や葉を食べたり、その木をすみかにしたりしている生き物たちがいて、自然界の中で生き物たちは繋がっていること。そして、私たち人間も、それぞれの木の性質により、良質の木材として、生け垣として、油や医薬品の原料として、また食用として、様々な形で生活の中で利用してきたこと。今まで何となく見ていた校庭の木々との、新たな出会いとなりました。

この活動は、子どもだけでなく、教師にとっても森林への興味関心が高まり、教材研究とその後の活動が広がるきっかけとなりました。またその後は、森のせんせいから教わったことやさらに調べたことをまとめて全校に紹介したり、教わった木の名札を作って取り付けたり、季節が変わった後に、それぞれの木の写真を撮ってクイズにして伝え合ったりする活動に繋がりました。

内容	・樹木観察 ・森と樹木の話
時間	2 時間（理科）
場所	校庭
対象	4 年生 17 人
講師	森のせんせい：山野内宗広氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 自然の魅力を学ぶための教材はすぐ身近にあります。何に着目し、どう切り取って子どもに伝えるか、その大切さを改めて教わりました。

# 05

## 森の話とマイ箸作り

鈴鹿市立庄内小学校



クイズ形式で森と林業の話聞く



間伐の意味と人工林の手入れについて



治具とカンナを使った箸の形の整え方の説明



各自でカンナ体験とサンドペーパー仕上げ

### ねらい

- ・ 森林の働きを知り、森林や林業の大切さに気付く
- ・ 木を使うことで木や森が元気になることを知る
- ・ 実際に使うことで木の良さを感じ、木に親しむ

### 取組内容

森林の働きや林業について、木を使う意義などの話を聞きました。スライドでまとめてあり、分かりやすい内容でした。

また、実際の写真を表示したり、クイズが出されたりして子どもたちに興味がわく内容でした。

その後、マイ箸作りを行いました。初めて体験するカンナがけでは、とまどいながらもカンナで形を整え、サンドペーパーでみがき、マイ箸の完成に向けて一生懸命取り組みました。

内 容	・ 森の話 ・ マイ箸作り
時 間	2 時間（社会科）
場 所	5 年生教室
対 象	5 年生 18 人
講 師	森のせんせい：出口省吾氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 たくさんの工夫をしていただいたので、子どもたちは、楽しく学習できました。

# 06

## 森林の話と箸作り

津市立大里小学校



森林の話（林業のサイクル）



原木にふれて林業の現場を実感



小刀で鉛筆を削る練習



マイ箸作りのために角まで丁寧に磨いています

### ねらい

- ・ 森林の働きと林業、木を使う意義を知る
- ・ 木材を使うことのよさ、木の加工のしやすさを学ぶ

### 取組内容

社会科の授業に関連して、森林の働きについて学びました。間伐など木を切ることで環境を壊していると思っていた児童が、森を手入れすることで、環境を守っているということに気づくことができました。また、普段、身近にない林業という仕事について学び、林業に興味を示す児童もいました。

箸作りでは、木の香りを感じながら、自分だけの箸を作り、木材の加工のしやすさや、木材が使われているものに興味を持つことができました。また、小刀を初めて使う子どもが多かったのですが、この体験を通じて、角度を変えながら鉛筆を削ることができるようになりました。

内 容	・ 森林の話 ・ マイ箸作り
時 間	2 時間（社会科）
場 所	多目的ホール
対 象	5 年生 39 人
講 師	森のせんせい：中勢森林組合
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 森林の話は、児童が初めて知ることも多く、とても勉強になったようです。工作では、真剣に、楽しくできて木材が身近なものだと感じることができました。

# 07

## 森のはたらき 木のはたらき

すぐり  
津市立村主小学校



年輪を見せてもらって、説明を受ける児童



木材の性質の話をする森のせんせい



教えてもらいながら、一生懸命マイ箸を作成



できた箸で木の特性の説明を興味深く聞く児童

### ねらい

- ・ 森林環境教育を通して、森の働きを知ったり、間伐材の利用について学んだりする

### 取組内容

森の働きや林業、緑の循環、木材の性質などについて、森のせんせいから話を聞きました。森のせんせいは、製作した椅子やいろいろな種類の木の年輪を見せるとともに、仕事に対する思いも話されました。

その後、図工室に移動して、間伐材でマイ箸作りを行い、児童は小刀や、サンドペーパーを使いながら思い思いに自分のお箸を作り上げることができました。

内 容	・ 森の話 ・ マイ箸作り
時 間	2 時間（総合的な学習の時間）
場 所	4 年生教室、図工室
対 象	4 年生 23 人
講 師	森のせんせい：柳田国男氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 子どもたちは、森のせんせいが出されるものすべてに興味をもち、目を輝かせて話を聞いていました。マイ箸作りの体験は、4年生児童には少し難しかったですが、手伝ってもらいながら作れて、とても充実していました。5年生の社会科の授業で森林について学ぶときにつなげていきたいと思いました。



スギとヒノキの違いを比べている様子



作業の仕方を真剣に聞く子どもたち



黙々とサンドペーパーで角をとっている子どもたち



完成した箸

## ねらい

- ・自分たちの生活の中で、身近なところに使われている木について知る
- ・木の製品を使うことで、森林の整備につながり、緑の循環を通して持続可能な社会の実現につながることを学ぶ
- ・箸作りを通じて、木製品の良さを知る

## 取組内容

- ・生活の中で使われている木材について代表的なスギやヒノキの話を中心に、林業や山と木の仕事の話、森の働きなどの学習をしました。
- ・サンドペーパーの使い方やノコギリの使い方を教えてもらい、それぞれスギとヒノキで箸作りをしました。また仕上がったものに、蜜蝋を塗る作業をし、完成させました。
- ・木材の輪切りをみて、年輪の数はどれくらいかをあてる活動（樹齢を知る。）をしました。

内容	・木と森の話 ・箸作り
時間	1 時間 30 分（総合的な学習の時間）
場所	体育館
対象	5 年生 14 人 6 年生 16 人
講師	森のせんせい：宮川森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 工作の時間では、丁寧にやすりをかける作業を黙々と行なう姿があり、熱中していました。箸の長さの調節では、どのくらいの長さにするのか班の子たちと相談し合い、友だち同士で活動する様子が見られ良かったです。

# 森林のはたらきを学ぼう

## ～木を身近に感じることを通して～

ときだ  
多気町立外城田小学校



Myキーホルダー・森のせんせいと一緒に



はじめてのノコギリ



プロの手腕に驚き



ヒノキの円盤を見せ木の特徴を説明

### ねらい

- ・自分たちが使用している水道水の水源は森林であることを知るとともに、森林には水を蓄えたり、水をきれいにしたりする働きがあることを知る
- ・木工の体験を通じて、ノコギリやヤスリを使って、身近な木材を加工して利用することができることを学ぶ

### 取組内容

わたしたちの暮らしは、空気・水を通して森林とつながっていることを教わりました。具体的な林業の話から、森林や樹木を育てていくことは60～80年もかかることを学ぶことができました。また、林業は緑を循環させていく持続可能な産業であることについても学ぶことができました。

さらに、スギやヒノキの他、カキやミカンなど身近にある木材を使って木工を体験しました。樹木の違いの説明を受け、身近な、樹木にもいろいろな種類があり、重さなど特徴があることを学びました。多くの種類の木材にふれ、それぞれの香りや木目の違い・美しさに子どもたちは興味津々でした。その中から自分の気に入った材を選び、キーホルダーに加工しました。木工では、ノコギリのひき方やヤスリのかけ方などの指導があり、木材という資源を身近に感じることができました。

【先生のコメント】 樹種ごとの違いを五感で感じつつ、自分の作品を作ることを通じて、学習したことを深めていくことができました。

内 容	・森林の働きの話 ・木工体験
時 間	3 時間 (社会科 1 時間、図工 2 時間)
場 所	4 年生教室、図工室
対 象	4 年生 9 人
講 師	森のせんせい：細渕芳弘氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

# 森のせんせいといっしょに木となかよしになろう

伊勢市立<sup>そうち</sup>佐八小学校



森のせんせいからの木の話



五感を使って校庭の樹木観察



木の葉っぱを使った作品づくり



1・2年生全員の作品

## ねらい

- ・校庭や学校周辺の樹木について、五感を使って葉や枝の様子を観察し、身近な自然に興味や関心を持つ
- ・集めた葉っぱを使って工作を行い、自然の素材を活かした造形活動を楽しむ

## 取組内容

- ①小枝や木片で木のおいをかきました。きつにおいやさわやかなにおい、木の種類によってもにおいがちがうことを発見しました。
- ②校庭に出て様々な樹木を観察し、葉っぱを集めました。手でさわったり虫めがねで見たりして形や色、手ざわりのちがいを楽しみました。
- ③集めた葉っぱを台紙に貼り、動物や顔などを作りました。

### (児童の感想)

- さいしょ、木のおいをかいてみたら、きつにおいがしました。でもこすってみたら、ちょっといいにおいになりました。こうさくはむずかしいところもあったけど、たのしかったです。いろいろなきれいな葉っぱが見つかったので、うれしかったです。
- はっぱをあつめるのがたのしかったです。はっぱをはるのも、たのしかったです。学校にひいらぎがあったのでつかいました。こうさくをするのがたのしかったです。学校にはいろいろな葉っぱがありました。こんなに葉っぱがあるとはしりませんでした。

【先生のコメント】身の回りの自然について改めて目を向けることによって、気づきや学びを促し、興味や関心をもたせることができました。個々の自由な発想を活かして、のびのびと造形活動を楽しむこともできました。継続して実施することによって活動を充実発展させていきたいです。

内容	・樹木観察 ・葉っぱを使った工作
時間	2時間(図工科)
場所	校庭、1階ワークスペース
対象	1年生3人 2年生14人
講師	森のせんせい：藤川和彦氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

# 11

## 森のおくりもので作品をつくろう

伊勢市立上野小学校



木の重さを体験



集めた葉や実、枝を使ってオブジェ作り



林業の話聞く様子

### ねらい

- ・自分が育つふるさとの良さを知り、里山を大切なものだと認識する
- ・作品作りを通して、木材や自然の良さを体感する
- ・林業の仕事を学び、森のせんせいの森に対する思いを知る

### 取組内容

伊勢市立上野小学校では、1年生9人が森のせんせいから林業の話の聞いたり、チェーンソーでヒノキの皮つき丸太を目の前で円盤に切ってもらったりしました。

また、教室で切り取った円盤を台にして木の実や枝、葉を使ってオブジェ作りを楽しみました。教室がさわやかなヒノキの香りにつつまれ、すてきな作品ができて子どもたちは満足そうでした。

活動の後、森のせんせいから再びくわしく森の仕事の話の聞き、子どもたちは、自分たちの身近な森が人の手で守られているのだと知ることができました。木を生活に使っていくことが森を守ることにつながると感じ「木が大好き」と言葉にしていました。

【先生のコメント】 木の好きな里山を守る人に育つことを願っての出前授業は、子どもたちにとってとても楽しく貴重な体験となりました。森と里山で人と自然が共生していくことにつながる「木が好き」という気持ちを持たせることができました。

内 容	・森の仕事の話 ・オブジェづくり
時 間	2 時間（生活・図工科）
場 所	1 年生教室、運動場
対 象	1 年生 9 人
講 師	森のせんせい：福山成宣氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業



# 森や木について知ろう

～三重県産の木を使って椅子を作ろう～（上野小学校）

～三重県産の木を使って小箱を作ろう～（宮山小学校）

# 12

伊勢市立上野小学校・伊勢市立宮山小学校

## 【上野小学校】



年輪を見る子どもたちの様子



椅子を組み立てている様子



電熱ペンを使って字や絵をかく様子

## 【宮山小学校】



全体の様子



森のせんせいによる木や森の話



小箱を組み立てている様子

## ねらい

- ・ 森林や木、木材について楽しく学びながら興味をもち、理解を深める
- ・ 伊勢の自然の良さ・豊かさに気づく
- ・ 木工体験を通して生命や自然を大切にすることの心や他を思いやる優しさを育む

## 取組内容

森のせんせいから伊勢地域を中心とした木や森に関する講話を聞いた後、三重県産のスギやヒノキを使って木工体験を行いました。

講話では、木や森を育てることについて話があり、実際の木を触ったり香りをかいだり、森で使用する安全靴を履いたりして体全体で自然を感じることができました。

三重県産のスギ材を使った椅子作り（上野小学校）・ヒノキ材を使った小箱作り（宮山小学校）では、自分で釘を打って組み立て、電熱ペンを使用して完成した作品に字や絵をかいてオリジナルの椅子・小箱を作ることができました。

内容	・ 森林と木の講話 ・ 三重県産材を使った木工体験
時間	3 時間（総合的な学習の時間）
場所	体育館
対象	上野小学校：4～6 年生 30 人 宮山小学校：5 年生 46 人
講師	森のせんせい：森下ゆう子氏 森のせんせい：（株）貫じん堂
備考	伊勢市教育委員会事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」の「きらり自然体験活動推進事業」

【先生のコメント】 自分たちの周りにある森が手入れをされていることで保たれていることに驚いていました。木を使う体験で、作る楽しさと木への愛着を持つことができました。また、森林、林業について考える良い機会となりました。（上野小学校）

実際に木を見たり、木の感触を感じたりすることができるため、児童も意欲を持ち、楽しんで学習に取り組んでいました。森林や、林業に興味を持つきっかけとなる活動になりました。来年度以降も実施していきたいです。（宮山小学校）

# 13

## 木にさわってゲームを楽しもう！

と き だ  
玉城町立外城田小学校



森のせんせいの紹介



クップの紹介



クップに挑戦中

### ねらい

- ・森林から産出された木が加工され、身近なものに使われていることを知る
- ・薪を使った遊びから始まったゲームの「Kubb（クップ）」を知る
- ・木を使ったゲームで楽しく運動をする

### 取組内容

まず児童は、多目的室で森や木の働き、人工林、緑の循環、クップなどについてクイズを交えながら説明を聞き、森林の大切さを学ぶことができました。また、キャリア教育として林業のやりがいについての話もありました。

その後、森のせんせいからクップのルールや使う道具の素材、クップの魅力について説明を受けました。そして児童は5～6人の8チームに分かれ、実際に運動場でクップ競技を行いました。どのチームもクップを倒す方法や投げる順番など作戦を考えていきました。相手チームのクップを倒すと、チームみんなで喜び、楽しく競技をすることができました。競技後の感想の中には、木と木がぶつかり合う音が気持ちよかったという声もありました。さらに、クップは2021年開催の「三重とこわか国体」のデモンストレーション競技になっていることもあり、参加してみたいと思う児童もたくさんいました。

森のせんせいの話やクップを通して、木の大切さや魅力について学ぶことができました。

【先生のコメント】 森のせんせいの話から、木の大切さや林業をしている方の思いを学び、社会科の国土や産業の学習への関心を高めるきっかけになりました。

また、クップの体験では、尾鷲ヒノキにふれ、ヒノキの木の感触や重さ、木と木がぶつかる音などを楽しみながら活動をすることができました。

内 容	・木の話 ・クップ体験
時 間	1 時間 30 分 (2限)
場 所	多目的室、運動場
対 象	5 年生 46 人
講 師	森のせんせい：三重県クップ協会
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育支援業務」

# 14

## 森林のはたらきを知ろう ～マイ箸を作ろう～

しもときだ  
玉城町立下外城田小学校



森林の話聞く



年輪の数を数えている



カッターナイフで角材を削り、箸を作る

### ねらい

- ・ 森の働きを知る
- ・ マイ箸作りを通して、木に親しむ

### 取組内容

1時間目は、森のせんせいから森林の働きや木についての話を聞きました。森林は生き物のすみかになったり、二酸化炭素を吸収して空気をきれいにしたりしていることを学びました。また、実際の木材や年輪の様子を観察しながら、季節や森林の環境によって木の成長にちがいができることも教わりました。さらに、数種類の木の枝や葉っぱを観察し、クイズをして楽しみました。

2時間目は、スギの角材をカッターナイフで削り、マイ箸を作りました。慣れないカッターナイフで木を削る作業でしたが、慎重に進めました。箸の表面にヤスリをかけ、アマニ油をぬると木目がはっきり浮かび上がりました。子どもたちはできあがったマイ箸を手にして、木の箸の質感や美しい木目にうっとりして、とても満足気でした。その日の給食では、さっそく自分の箸で嬉しそうに食べる子どもの姿も見られました。

内容	・ 森の話 ・ マイ箸作り
時間	2 時間
場所	5 年生教室
対象	5 年生 25 人
講師	森のせんせい：いせしま森林組合
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育支援業務」

【先生のコメント】 森林の働きを知り、それを守り管理していく大切さに気づくことができました。実際に箸を作り、使ってみて、子どもたちは生活の中で様々に使われている木の良さを再認識したようでした。

# 15

## 森のはたらきを知り、木で作ってみよう！

南伊勢町立南勢小学校



木はこうやって切るんだなあ



質問に答える森のせんせい



この木は何オだろう？



楽しいマグネットづくり

### ねらい

- ・ 森林の働きや木の生長する仕組みを知る
- ・ 木にふれて、加工の容易さを知る
- ・ 自分で作る達成感を感じる

### 取組内容

#### 「森の話」

森のせんせいから、森林や木についての話があり、チェーンソーで切断する様子を見学しました。

森林は動物などの住みかとなり、二酸化炭素を吸収して空気をきれいにしていることや、木は吸収した二酸化炭素で大きくなり、その生長で年輪ができ、年輪を数えると年齢が分かるということを学習しました。また、健全な森林があることで雨が地中に浸透し、土砂災害を防止する働きについても学びました。

樹木の円盤の年輪を数えて年齢を当てたり、枝葉のにおいをかぐ体験をしました。

#### 「木のマグネットづくり」

子どもたちは、森のせんせいが用意したスギ、ヒノキなどの木の枝の円盤から1つ選びました。サンドペーパーで自分の好みまで削りました。木の皮を残して風合いを楽しむ子、すべすべの表面にする子など、様々でした。その後、自由に絵や文字を描いて、裏面にはマグネットを貼り付け、オリジナルのマグネットができました。

内 容	・チェーンソー実演見学 ・森の話 ・木のマグネットづくり
時 間	1 時間 30 分（生活・図工科）
場 所	体育館、図工室、ワークルーム
対 象	1 年生 14 人 2 年生 34 人
講 師	森のせんせい：いせしま森林組合
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 身近な森林について学ぶ良い機会となりました。また、実際にチェーンソーで切ったり、丸太の実物が用意されていたことで、より意欲的に学習することができました。マグネットづくりでは、自由に好きな木を選び製作でき、どの子も宝物のマグネットになりました。

# 16

## 暮らしの中に森林を感じよう

にしつげ  
伊賀市立西柘植小学校



水のおいしさの秘密についての学習



野外活動で、かまどで火起こし、カレー作りに挑戦



学習発表会のひな壇の製作



卒業生が残してくれた木製ベンチなどの修繕と保護を兼ねたペンキ塗り

### ねらい

- ・ 校区周辺地域の飲み水と森との関係について理解を深める（4年生）
- ・ 森林の中での野外宿泊活動を通して、人々に森林がもたらす働きを感じる機会とする（5年生）
- ・ 学習発表会のひな壇作りを通して、木の価値について考えを深める（6年生）

### 取組内容

4年生は、米どころ、酒どころであり、近年大手飲料水メーカーも工場進出をしてくれている校区周辺地域の水のおいしさの秘密をテーマに学習しました。ボランティアティーチャーから豊かな森林がおいしい水を作り出すことを学びました。

5年生は、野外宿泊活動を、森林と人との豊かな関わりを感じる大事な活動として位置づけています。かまどでの火起こし、夕食づくり、キャンプファイヤーや木のキーホルダー作りなど、木と仲間の温かみを学ぶ機会となりました。

6年生は、保護者を招いての学習発表会の場で使うひな壇を自分たちの手で製作しました。「学校よくしようプロジェクト」として、今後も活用できるものとして製作しました。また、これまで卒業生が残してくれた木製の秘密基地やベンチなどを保護するペンキ塗装も施しました。

内容	・ 森林の学習 ・ 森林野外活動 ・ 木工
時間	4年生 2時間 5年生 2日間 6年生 4時間（総合・図工の学習）
場所	4年生 教室 5年生 南城山村自然の家 6年生 校内
対象	4年生 15人、5年生 28人、 6年生 17人
講師	4年生水の学習：奥澤重久氏（伊賀市ボランティアティーチャー）
備考	「みえ森と緑の県税市町交付金」を活用した市事業「伊賀の森っこ育成推進事業」

【先生のコメント】 森林との関わりについて、4年生から学習を積み上げることで深い学びにつながっていることを感じました。森林がもたらす豊かな暮らしについて、継続して取り組んでいきたいと思ひます。

# 校庭の樹木を調べ、身近な樹木と親しくなろう

## ～樹木名板作り～

四日市市立橋北中学校



与えられた資料から樹木名をタブレットや図鑑で調べる



樹木の測定方法の学習



樹木名板を取りつけ



各班から、それぞれで調べた樹木の特徴や名前の由来などの発表

### ねらい

- ・校庭の木を観察することにより、木の生態を知り、木に興味を持つ
- ・調べた木の樹木名板を作成し、木の大切さを日ごろから感じる態度を育成する

### 取組内容

- (1) 「校庭の樹木名を調べる」
  - ① 班ごとに2種類の樹木写真、葉、枝のラミネートカードを配布し、タブレット・図鑑、また実際に校庭の樹木を見て、樹木名や特徴を調べました。
  - ② 調べた樹木名が正しいかどうか森のせんせいに判定してもらい、正解後、樹木名板を作成しました。
- (2) 校庭の樹木の測定・観察、樹木名板設置
  - ① 2種類の樹木の測定方法や測定道具の説明を受け、実際にその樹木の胸高直径や樹高を測定しました。
  - ② 樹形、葉の形、樹皮、根など実物を見て、その樹木の特徴を観察しました。
  - ③ 2種類の樹木名板を取り付けました。
- (3) 各班からの発表
  - ① 各班から調査内容と、感想を発表しました。
  - ② 森のせんせいからそれぞれのコメントをもらいました。

内 容	・樹木測定・観察 ・樹木名板づくり
時 間	1 時間 30 分（総合的な学習の時間）
場 所	校庭、体育館
対 象	1 年生 30 人
講 師	森のせんせい：認定NPO法人森林の風
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 日常生活の中で、木に触れることが少ない生徒にとって、とても貴重な体験授業となりました。この授業を通して、木に対する「見る・観る・診る」という態度が養われたと思います。また、樹木名板作成の体験を生かし、今後も樹木に対する関心が広がるよう取り組んでいきます。

# 18

## 美杉産の杉の間伐材を使った木工品作り

津市立橋北中学校



森のせんせいから木の話



大鋸（おが）で木挽き体験



けがきの様子



ノコギリ作業の実演



ノコギリ作業の体験



ねじ接合

### ねらい

- ・ 県内の森林や林業の現状、森の働きと大切さ、県産材を使う意義と建築について学ぶ
- ・ 美杉産の杉の間伐材を使って木工品を作る

### 取組内容

1年生の技術科では、美杉産の杉の間伐材の一枚板、厚さ15mm、幅210mm、長さ1200mmの小節のものを使って授業を進めています。夏休みまでに設計を進め、等角図で自分の考えたものを構想図に表しました。二学期に入り、けがき（加工するための下書線引き）と、ノコギリ引きを2時間程度行った後に、出前授業を受けました。

講話では美杉産の木を使って家づくりをしていることや古民家再生に尽力していることを通して、間伐や森を大切にすることの必要性を話されました。また、丸太を大鋸（おが）で切る貴重な体験ができました。そのあと、けがきの仕方やノコギリ引きの仕方、ヤスリがけの仕方など、わかりやすく実演を交えた授業を受けました。ノコギリ引きでは、切り初めに押して切り込みを入れることや真上から線を見ながら切ること、線が切りくずで見えないときは、口で切りくずを吹きながら切るなどコツを教わり、そのあと実際に個別指導を受けました。

内 容	木材の話と木工
時 間	1 時間（6回）（技術科）
場 所	木工室
対 象	1 年生 227 人
講 師	森のせんせい：高橋一浩氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 子どもたちは、出前授業を受けて、大工さんの話と実演に感動し、自分の製作意欲の向上につなげています。教えてもらった技術や心持を大切に、素敵な作品が完成できるよう尽力しています。

# 19

## 森の話とマイ箸作り

津市立西郊中学校



森のせんせいによる森の働きや林業の講話



小刀を使用したマイ箸作り

### ねらい

- ・ 森林・林業の現状や森林の働き、大切さを知る
- ・ 二学期に美杉産の木材を使用した木工作品の製作にむけて県産材を使うことの意義を知る
- ・ 県産材を使つてのマイ箸作りを行い、木の良さを感じ、木に親しむ

### 取組内容

授業の前半では、森のせんせいから森や林業の話がありました。本校では二学期に美杉産のスギ集成材を使って木工作品の製作を行います。「なぜ地元津市産の材料を使うのか」その意義と、森を大切にすることが災害防止や海産物を豊かにし、持続可能な環境を作っていくためにも大切であることを教わりました。

授業の後半には、美杉産の杉でマイ箸作りを行いました。生徒の多くは小刀を初めて使用したため、最初はとまどっていたもののだんだんと慣れてきました。生徒それぞれが木材の特性を感じつつマイ箸作りを楽しみました。

内容	・ 森の話 ・ マイ箸作り
時間	50 分× 3 クラス（技術科）
場所	金工室
対象	1 年生 115 人
講師	森のせんせい：中勢森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 森林・林業の現状をよく理解したようでした。2限目は技術科教師だけでマイ箸作りの続きを行いました。1限目と同様、熱心に製作することができました。二学期に美杉産の木材を使った木工作品の製作を行います。それに向けて良い導入の授業となりました。



# 生徒による竹林整備の取組

～放置竹林の整備で地域貢献～

三重県立桑名工業高等学校



竹林整備の講義



竹林整備の様子



卒業制作（竹あかり）



伐採した竹のチップ化



うちわづくり

## ねらい

- ・ 地域における放置竹林の問題について学ぶ
- ・ 生徒自ら竹林整備を行い、学校周辺の環境整備及び地域貢献を図る

## 取組内容

当校では令和2年度から、地域の課題である放置竹林対策など竹林の現状をテーマとし、課題研究の授業をスタートしています。

桑名市農林水産課、NPO法人桑竹会から講師を招き、地域の竹林に関する講義、安全衛生講習を受けた後、学校に隣接する竹林において竹林整備の実習を行いました。実習は、講師が切り倒した竹を生徒がノコギリで2～3mに小切り、林内に整理、集積したものを、移動式チップパーで粉砕する作業を行いました。

また、竹林整備により発生する竹材の利活用の検討では、卒業記念作品の製作、「日永うちわ」の製作を通じた伝統工芸の継承についての学習、流しそうめんによるイベントの発案等を行いました。

放置竹林の現状を理解し、竹林整備や竹材の利活用に取り組むことで、地域の課題解決に向けて総合的に考える貴重な経験となりました。

内 容	・ 地域竹林に関する講義 ・ 竹林整備の実習 ・ 日永うちわ等の製作体験
時 間	3 時間× 20 回
場 所	実習教室、桑名市内
対 象	デュアルシステム専攻 3 年生 10 人
講 師	桑名市農林水産課、NPO法人桑竹会、 榎稲藤（日永うちわ）
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」 を活用した市事業「里山再生・竹林 整備推進事業」

【先生のコメント】 デュアルシステム専攻の生徒は、週に1日、一年を通して地域の企業を訪問しての実習を行うほか、校内学習として課題研究を行っています。今回は、産学官で連携して、地域の課題解決に向けた取組を検討しました。行政、企業、NPOといった多様な団体と関わる体験を通じて、社会に出て活躍できる人材に育てて欲しいと考えています。

# 21

## 間伐材を使ったすのこ作り体験

～わくわく農林塾での森林環境教育～

三重県立久居農林高等学校 環境保全コース



寸法をとる 同じ長さになるよう正確に



釘打ちの様子 指を叩かないように気をつけて



仕上げはサンドペーパーで きれいに仕上げる



間伐や森林の機能について 熱心に聞く児童

### ねらい

- ・教えることを通して森林・林業や環境について理解を深め指導性を高める
- ・地域の小学生との交流を通してコミュニケーション能力や社会性を高める

### 取組内容

久居農林高等学校では、専門的に学んだ知識や技術を活かし、生徒が地域の子どもたちに教える「わくわく農林塾」を実施しています。

環境保全コースでは間伐材を使ったすのこ作り体験を行いました。まず、作り方や道具の使い方を説明し、小学生と高校生がペアになって作業を始めました。作業中は安全管理を徹底し、分からないところがあればアドバイスや作業補助を行いました。最初は戸惑いながらの作業でしたが、時間が経つにつれて打ち解けることができました。作業を安全に楽しく進め、全員が立派なすのこを完成させることができました。完成後は、

ポスターを使って森林の働きや機能、間伐の目的や間伐材の利活用などについて説明しました。間伐材を使うことが森林や環境を守ることにつながることをこの体験を通して伝えることができました。

内容	林業系専門高校生による小学生への木工体験教室
時間	2時間(2回)
場所	木材加工実習室、森林科学実習室
対象	久居農林高等学校環境保全コース 2年生 28人 津市立誠之小学校 5年生 58人
講師	久居農林高等学校 環境保全コース教員

【先生のコメント】「教わる」立場から「教える」立場になることで、伝えることの難しさや、上手く伝わった時の喜びを感じることができました。すのこ作り指導やポスター説明を通して、これまでに学んできた知識や技術を活かすことができ、大きな自信につながりました。

# いがの木を使ったパンフレット棚製作

～「みえ森と緑の県民税」を活用した取組～

三重県立伊賀白鳳高等学校工芸部



製作の様子（工芸部の焼印）



ヒノキとクルミで製作したパンフレット棚3台



棚の引き出し



プレゼンテーション



## ねらい

- ・ 地元の木材（ヒノキ）の良さを知り、木工の技術を向上させる
- ・ 主体的に取り組む力を育て、プレゼンテーション能力を高める
- ・ 地域の高校生の活躍により、地域を明るく元気にする

## 取組内容

三重県の高校で唯一、木工を中心としたインテリアから建築まで学べる学科があり、その工場で工芸部は活動しています。

今回、伊賀・名張にある3つの農作物販売所（ういの丘、ひぞっこ、こうづの郷）からパンフレット棚の製作依頼を受け、現地にて要望聞き取りを行ないました。その意見を踏まえ、部員全員がアイデアを出し合い、デザインを完成させました。また、CADを使用し設計図面に起こしました。彼らが考えたコンセプトは、「誰にでも見やすくパンフレットが取りやすいこと」、「場所に応じて様々な使い方ができること」の二つです。材料は、いがの木で美しいヒノキを使用し、木工機械やカンナ、ノミといった手道具で製作しました。意見交換会や完成披露会などが開催され、部員自らプレゼンテーションを行いました。とても緊張していましたが、大勢の前で発表する機会は、良い経験になりました。また、販売所の方に喜んでいただけて、部員達も嬉しかったようです。

内容	木工
時間	毎日放課後 2 ～ 3 時間程度 (約 8 ヶ月)
場所	工芸/建築デザイン科棟
対象	工芸部 1、2、3 年生 14 人
講師	伊賀白鳳高等学校教員
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した伊賀市事業 「森のやすらぎ空間整備事業」

【先生のコメント】 本校工芸部は、「主体的に考えるものづくり」を目指して、生徒自らが家具や彫刻作品など制作をしています。

今回のプロジェクトを通して、地元の木の美しさや良さを知ることや、製作を通してものづくりの楽しさだけでなく、使い手のニーズにあったものづくりの大切さや、ものを大切にする気持ちなど、豊かな心を育みました。半年以上かけて取り組み、試行錯誤しながら完成させた部員達の姿は、ひとまわり人間的に大きくなったように見えます。今回の活動が、人生のあらゆる場面で活かされることを祈っています。



林業の話



箸作り



丸太切り体験とコースター作り



最適な木取りについて



休憩時間に木材を観察



端材についての話

## ねらい

- ・森林が果たす役割について学び、木が生きものを守ったり自然災害を防いだりしていることなどを学ぶ
- ・林業に携わる人々の仕事や思いについて学ぶ

## 取組内容

2日間のプログラムで、初日は森のせんせいから森林の働きや林業について学んだ後に、スギ材での箸作りとヒノキ材の丸太切り体験とコースター作りを行いました。

講座で、森の働きには、水を蓄えきれいにする、空気をきれいにする、土の流出を防ぐなど、様々な役割があることを学びました。そして、林業のサイクルは60～70年で循環していることやその仕事内容について詳しく学びました。

その後、箸作りと丸太を切ってコースター作りをし、木の良さを体感しながら、道具の使い方も学びました。

2日目は、丸太から柱や板などを取る木取りの話を中心に、木取りした材の残りの端材から、具体的にどんなことができるかの話を行いました。もったいないという発想から、端材を活かしての商品開発及び販路拡大への取り組み事例についても学びました。

2日間学んだことは、これからの総合学習の時間で、林業が直面している課題についての解決法を考えるときに活かします。

内 容	・森林や林業の話 ・マイ箸作り ・丸太切り体験とコースター作り
時 間	1 日目 1 時間 40 分（社会科） 2 日目 1 時間 30 分（社会科）
場 所	体育館・5 年生教室
対 象	5 年生児童 95 人
講 師	森のせんせい：中勢森林組合 森のせんせい：みえもん
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 1日目のコースター作りでは、普段できない丸太切り体験をさせていただきました。初めてノコギリを使う子もあり、勢いよくノコギリを動かす子、力任せに切ろうとする子、なかなか力が入らずに切り進まない子達など様々に楽しんでいる様子でした。

2日目には木のいろいろな特徴とその使い方を教えていただきました。特に商品を生み出すためにアイデアを練ったり、試行錯誤するというお話を子どもたちはとても興味深く聞いていました。子ども達の中には「買いたい」とつぶやく子もいました。2日間を通して、子ども達は木をより身近に感じることができ、木と親しむことができたように思います。貴重な機会を頂きありがとうございました。

# 24

## 木育体験教室

鳥羽市立かもめ幼稚園

<5歳児>



丸太切り体験



積み木で木の成長を学ぶ

<4歳児>



ペンダントづくり

<3歳児>



ストラップづくり

### ねらい

- ・ 森から切り出した木にふれ、香りや木のぬくもりを感じる
- ・ 自分の作ったものを使ってあそぶ

### 取組内容

5歳児は、ノコギリを使って丸太切りを体験しました。初めは「こわい」と言って遠巻きに見ていた子どももいましたが、徐々に興味を持って取り組んでいました。さらに、切り取った円盤をサンドペーパーを使って面取りを行い、積み木作りを楽しみました。

また、積み木を入れる布袋に、園庭の葉っぱに絵の具をつけてスタンプ遊びをし、世界でたった一つの自分だけの積み木を作りました。

3・4歳児は、ヒノキの円盤にマーカーで思い思いの絵を描いたり、着色したりして、ストラップ作りをしました。

園児は、「なんか、ええ匂いするなあ」「そうなん、木ってこんな匂いするんや」と言いながらほおずりしたり、家に持ち帰りクリスマスオーナメントとして飾るんだなど、できたものを興味深く大切に扱っていました。またできあがったストラップを身に付けて嬉しそうにしていました。

内 容	・ 丸太切り体験 ・ 木工作
時 間	5 歳児 2 時間 20 分 4 歳児 20 分 3 歳児 30 分
場 所	園庭と各保育室
対 象	5 歳児 13 人 4 歳児 15 人 3 歳児 9 人
講 師	上長野ゆみ氏（森のせんせい） 福山成宣氏（森のせんせい） 浦中浩一氏

【先生のコメント】 初めは戸惑う園児がいましたが、各年齢に応じた体験をして子ども達はできたものを使い、嬉しそうに遊ぶ姿があり良かったと思いました。

# みえ森林教育ビジョン（概要版）

- ・森林と社会を巡る情勢の変化に対応した森林環境教育・木育を推進するため、ビジョンを策定
- ・みえ森林教育の基本的考え方、目標とする社会と人物像、取組の進め方を規定

## ビジョン策定の動機（森林・社会を巡る情勢変化）

森林と社会の持続可能性を追求する上で、森林と私たちの関係を見つめ直すことが不可欠

充実する森林を木材のみならず、さまざまな産業を展開する空間として活用し、森林を整備・更新することが必要

## みえ森林教育の基本的考え方（今後の森林教育の果たす役割）

森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育

森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育

自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

## 取組の進め方

### 森林教育の裾野の拡大

- 森林教育に気軽にアクセスできる場や機会の拡大
- 保育や教育への森林教育の更なる普及
- 大人や企業を対象とした森林教育の拡充

### 子どもから大人まで一貫した教育体系の構築

- 新たなみえ森林・林業アカデミーにおける森林教育と林業人材育成の統一的視点の下での推進
- 林業・木材産業に従事する方との連携強化

### 主体的・対話的で深い学びの充実

- 主体的・対話的な学びを取り入れた教育手法の普及
- 森林をフィールドとした体験活動の機会の拡大

### 指導者の養成

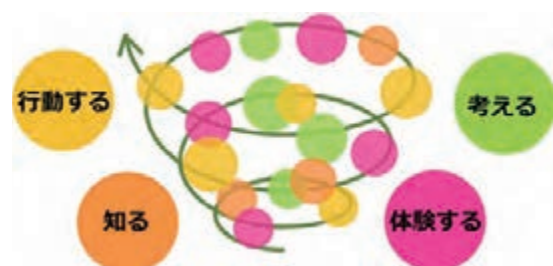
- ビジョンの指導者への共有
- 指導者養成講座の体系化

### 【目標とする社会】

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会

### 【目標とする人物像】

森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人



## 森林教育のサポート



学校や保育園・幼稚園、学童保育などで取り組まれる森林教育の活動にかかるサポートを行います。

### ●主なサポート内容

- ・「出前授業」の実施
- ・指導者「森のせんせい」の紹介
- ・授業を行うにあたっての相談対応
- ・授業の組立やプログラム作成のお手伝い

### 「出前授業」

これから森林教育を始めたいという学校等を対象に出前授業を実施しています。はじめの一歩にご活用ください。

## 指導者の育成

各種講座を通じて、森林教育の指導者の養成や、「森のせんせい」登録者のスキルアップを図ります。



### ●講座の内容

- ・「森林教育指導者養成講座」の開催
- ・「森のせんせいスキルアップ講座」の開催
- ・学校教職員向け森林教育研修の開催

# みえ森づくり サポートセンター

## 森づくりの つながり

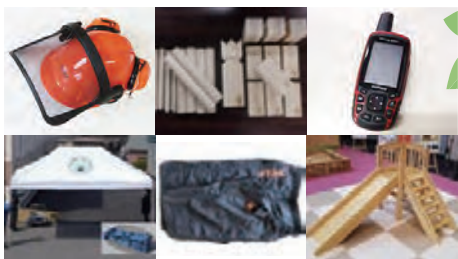
「森のせんせい」のネットワーク構築や、座談会の開催、森林教育、森づくり活動を行う団体との連携を行います。

## 物品や資機材の貸出

森林教育に活用できる道具・遊具や、森づくり活動に必要な資機材の貸出を行います。

### ●貸出物品の一例

- ・カップ用品の一式
- ・ヘルメット、チャップスなどの安全装備
- ・ハンディGPSなど測量用具各種



## 「ミエトイ・ キャラバン」

木製品の良さを多くの方に体験していただくために、三重県の木を使った木製遊具などを出展する

「ミエトイ・キャラバン」  
を行っています。

## イベントの開催



広く森林教育の取組を伝えるための「場」として、また指導者の実践の場として、各種イベントを開催します。

### ●イベントの一例

- ・木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」の開催
- ・自然観察や木工体験など「森の学校」の開催
- ・「こども森の写真教室」の開催
- ・「みえの森フォトコンテスト」の開催



表紙の写真 第7回みえの森フォトコンテスト入賞作品

(表) 小学生以下の部 「木の兄弟」 田中 馨さん

(裏) 中学生以上の部 「逆世界」 清水 梨花さん

---

### 【編集・お問い合わせ】

みえ森づくりサポートセンター

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内

TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp

web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori/> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

Instagram <https://www.instagram.com/miemoridukuri/>



この事例集は、「みえ森と緑の県民税」を活用して作成しました。

【発行】 三重県農林水産部 森林・林業経営課